

令和5年度 教育委員との意見交換会「教育委員と語ろう」議事録

開催日時 令和5年11月28日（火）10時30分～12時

開催場所 犬山市役所 3階301会議室

内 容 教育施策について、子ども未来園職員との意見交換

出席者 教育長 滝誠

教育委員 奥村康祐 田中秀佳 小倉志保 堀美鈴 渡邊智治 木澤和子

子ども未来園園長 11名

議事内容 以下のとおり

- 1 教育委員の自己紹介
- 2 園長の自己紹介と各園の取組状況について
- 3 意見交換

教育委員と園長が3グループ（ABC）に分かれて実施

内容（要約）は次のとおり

Aグループ

- 1 保育士の配置基準について、保育現場ではどう感じているか？
 - ・少子化の影響で、4，5歳児は定員に近い人数のクラスは少なくなっているが、現場は若い保育士も多く、実際に定員いっぱいのクラス人数になった時に保育できるか不安もある。
 - ・2歳児から3歳児になる時に、保育士1人当たりの子どもの人数が一気に増えるため、進級当初はフリー保育士や園長主任が補助に入り、園内で助け合いながら保育をしている現状である。
 - ・支援の必要な子が増えてきている。同年齢の子と過ごさせたいという保護者の思いから、療育より子ども未来園への入園を希望される方も多い。
 - ・トイレトレーニングや箸の持ち方などを、園で身につけさせてほしいと考える保護者が増えてきている。もう少し緩やかな配置基準だと一人一人に目が行き届きやすくなると感じる。
- 2 コドモンを導入して、どんな点が便利になったか？
 - ・園児の登園状況が一目で分かるため、ニュースであるような保護者が車から子どもを降ろし忘れる事故の防止につながる。
 - ・早朝延長保育の登園時間の記録や、延長一時利用の用紙の記入、延長料金の算出の必要がなくなり、事務の削減になった。

- ・担任が出席簿をつける必要がなく、毎日の出欠確認がしやすい。保護者の打刻忘れがないか確認が必要だが、短時間でできる。
- ・保護者が時間を気にせず、コドモンで簡単に園へ連絡できる。園の電話が繋がらないという不便もない。園も電話対応に追われない。
- ・お便りの紙面配布の必要がなくなった。写真を取り入れたお便りは園の様子が保護者に伝わりやすく好評である。

3 橋爪・五郎丸や、羽黒・羽黒北の新園について保護者の意見はあるか？

- ・橋爪・五郎丸は、新園開園が近いため、保護者の関心も高く、楽しみにされる声が多い。羽黒地区では、新園に期待を持つ保護者もいれば、まだあまり関心のない保護者もいる。祖父母の中には、昔から親しんだ園が無くなることに、寂しさを感じる方もいる。
- ・新園が良いと考える保護者もいれば、同じ園に継続して通わせたいと考える保護者もいる。選択できることは保護者にとってメリットである。
- ・現在の園は、老朽化や駐車場が少ないなど、時代に合わない部分もあるが、新園ができることで、保護者の利便性にもつながる。園としても、行事や登降園時の駐車場の心配がなくなることはメリットである。
- ・現在は、各年齢1クラスの園が多いが、新園では各年齢2クラスとなることで、幼児の3年間を同じメンバーで過ごすのではなく、クラス替えをしながら多くの友達と触れ合うことができる点はメリットである。
- ・保育士側の視点では、各年齢2クラスとなることで、保育士同士で相談や協力ができる点がメリットである。ただ、子どもの人数が現在の倍近い大規模園になることは、保育をしていく上で不安もある。

4 保育士不足が全国的に問題となっているが、何が原因と感じるか？

- ・命を預かる仕事で、怪我やトラブルがあった時の責任が重い。
- ・昔と比べて保護者の要求が増えており、保護者対応に細やかな配慮が必要である。「保育は楽しいが保護者対応が苦手」という保育士もいる。日頃からコミュニケーションを取り、信頼関係を築いておくことで、トラブルの時などに保護者の理解を得ることにつながる。
- ・支援の必要な子が増えているが、園での姿を伝えても保護者の理解を得られず、悩む保育士もいる。
- ・保育の計画や準備をしても、子ども同士のトラブルなどで思うように保育が進まないこともある。それが「子ども」というものではあるが、きちんとさせたいと考える保育士にとっては苦痛となる。
- ・コロナ禍で学生時代を過ごし、横のつながりを持ってない保育士もいる。園のクラス数も少なく、相談し合う相手がいないので、園内でフォローするように心がけている。
- ・女性が多い職場のため、育児や配偶者の仕事などの都合が優先となり退職する、または、短い時間しか働けないケースもある。
- ・責任は重いが、その分やりがいのある仕事である。「子どもがかわいいから、大変でも苦にはならない」という保育士の声もある。若い保育士にも保育の楽しさを感じてほしいと思っている。

Bグループ

1 若手保育士の状況、問題点は？

- ・休みの連絡を携帯電話のショートメールで入れてくる。
- ・ボランティアなどは、他の職員と一緒にならばできるが一人では難しい。
- ・遊びの経験が少ない。
- ・運動会などの様々な行事で、学年やクラス毎での開催しか知らず、コロナ前の状況を知らない為、以前の状況を言葉で伝えるのが難しい。
- ・以前は、野菜や花の苗植え前に、担任が畑や花壇の整備をしていたが、用務員が来てくれることで、畑や花壇の整備、草取りをやってもらうのが当たり前だと思っている。
- ・人間関係に悩む子が増えている。
- ・自分の休みはきちんと取る。時間外も自分から申請できている。
- ・療育利用児で迎え時に保護者に会えないこともあり、簡単な伝達事項はメモで知らせることもあるが、子どもが怪我をした際にもメモのみで知らせ保護者から詳細が聞きたいとの連絡が入ったことがあった。怪我の連絡は、必ず、担任から保護者に伝えるよう指導した。
- ・真面目な子が多く、言われたことはきちんとこなすが、自ら気づいて積極的に行動することは少ない。
- ・育休や産休に入り、継続して保育を続けることが難しい。
- ・保育環境整備などの指導も難しい。なかなか伝わらない。

2 外国籍について

○プレスクールとの連携はどうしているのか？

- ・該当の保護者へは就学前に手紙を配布している。
- ・忙しくてなかなか行けない人が多いのも現状。
- ・勤務する園には、外国籍の子が現在10名在籍している。日本語の理解や表出は、完璧な子もいればあいまいな子、母国語が混じる子等、子どもにより様々である。日本食である給食は、入園時には食べられない子も多いが、少しずつ食べられる食材が増えていく。プレスクールへの案内は全員にしているが、参加は保護者の意思や都合があり、皆が参加されるわけではない。就学時に躓かないようにしたい。
- ・保護者への連絡は、コドモンが主になったが、園日より、クラス日より、メール配信は日本語であるため、外国籍の保護者には伝わらないことが多い。行事の時間や持ち物等、重要な事は、個別に口頭で伝えるようにしているが、分かったと言っても分かっていないことが多い。実際に、運動会の集合時間に来ないため、電話で「今から来て」と呼び出しすることがあった。
- ・重要なことは、メモを渡す、事前と直前などに繰り返し伝えるようにしている。日本人以上に細かく知らせる事が必要である。
- ・2つの園に外国籍の保護者とのコミュニケーションツールとして翻訳アプリ専用のスマホを用意してもらった。便利ではあるが、上手く変換されないこともあり、難しさを感じる。

3 最近の保護者に関して感じる事、問題点等は？

- ・長い時間働いている人が多い。
- ・保護者同士の繋がりが希薄であると感じる。

- ・保護者同士の繋がりを広げていける手助けができるの良い。

Cグループ

1 園の理念、子どもを次の学年や小学校へつなげていくために大切にしていることは？

- ・犬山市の保育理念「豊かな心と丈夫な体でよく遊ぶ子どもに育てる」のもと、情緒の安定した中で様々な遊びに参加し、体も元気に育てる。遊びの中から、様々な事を自分からやってみたいと思えるような保育をしていきたいと思っている。
- ・子どものありのままを受け入れ、自分たちでしたいことができることを大切にしている。
- ・命を大切にすることを折に触れ、話している。
- ・外国籍の子が多いため、育ち方に違いがある。日々話し合い、楽しみながら保育している。
- ・異年齢保育と、学年での保育を行っている。保育士が色々な子に関わる中で、連携を取り、みんな（保育士）でみんな（子）をみている。
- ・様々な家庭環境の子がいるため、保護者の支援も大切にしている。
- ・支援の必要な子どもが増える中、ともに育ち合えるような保育をできるように心がけている。

2 職員について、育てるうえで大変なことは？

- ・一人の人として、その人を知ること。保育にはチームワークが大切。なんでも話せる仲の良い関係づくりを心掛けている。
- ・子どもの可愛かったことなどを話すことから相談にもつながっていくので、何気ない話を大切にしている。
- ・休んでいる職員がいる時には、他の職員全体でできるところを助け合いながら、気持ちよく戻ってこられるようにした。

3 保育、教育現場で感じること

- ・30～35歳くらいは、ゆとり世代と言われる。学習塾では、自分が習ってこなかったことを教えなければならない時に、子どもに対して知らないと言ってしまうなど、子どもとコミュニケーションがとりにくい指導者がいる。年代による違いを感じる。
- ・新人保育士は、一人一人を大切に保育することは、学んできているのでできているが、クラスをまとめていくことが難しい。補助してくれる保育士がいて、できていることでも、自分ができていると思っている。フォローしてもらっていることに気づいていないので、客観的に自分を見る機会を持てるとよい。
- ・毎年新人が入ってくる。保育のフォローをしながら助言したり、見本となったりしている。困っていることが重なり、仕事が嫌にならないように、フォローして育てていきたい。